

平成十五年度(第四十二回)農林水産祭畜産部門 天皇杯受賞  
平成十五年度 畜産大賞 『経営部門』 最優秀賞受賞

# 『低コスト化』追求で 安定経営を築く子牛生産

— 楽しい牛飼い人生を息子たちに —

藤岡数雄さん・美江子さん(西谷集落)



平成十五年度畜産大賞業績発表会において、西谷の藤岡数雄さん・美江子さん夫妻が経営部門において最優秀賞を受賞され、その表彰式が、一月十九日に東京都の虎ノ門パストラルで行われました。

この畜産大賞とは、社団法人中央畜産会が国内畜産の『経営』『指導支援』『地域振興』『研究開発』のそれぞれの分野で取り組まれている事例のなかから、その内容が合理性、普及性、発展性を有し、今日的・社会的意義のある事例について『畜産大

賞』等として表彰をしています。

選考は、農業・畜産関係団体、学会等より推薦された事例を、『経営』『指導支援』『地域振興』『研究開発』の四部門の審査委員会において書類および現地確認等で審査を行い、部門別最優秀賞、

優秀賞を決定します。さらに各部門の最優秀賞の中から畜産大賞一点が中央全体審査委員会において決定されます。

また、藤岡さん夫妻は、平成十五年度(第四十二回)農林水産祭天皇杯においても農林水産業者にとって最高の栄誉にあた

る天皇杯(畜産部門)を受賞されており、一月十五日、皇居の宮殿で藤岡さん夫妻を含む受賞者および受賞団体の代表者が天皇皇后両陛下とお会い(拝謁)されてきました。

藤岡さんは、農業経営の軸を肉用牛に決定し、繁殖牛を七頭導入してから二十八年経過しており、当初から子牛生産に必要以上の投資をせず、可能な限り経費を節減するという基本的な考え方のもとに、無理のない段階的な規模拡大を実行されて

きました。

今後も土地利用型農業を基本として過去の経験を活かし、さらに、藤岡さん夫妻十長男で成雌牛百五十〜百八十頭、次男分で成雌牛五十〜六十頭規模まで拡大し、経営の充実を図る計画を立てています。

今後の課題として、畜舎環境の整備および繁殖牛の改良と子牛商品性の向上を掲げています。環境にやさしい肉用牛経営を目指しており、育種価の高い繁殖牛を活用しながら優良牛を自家

保留し、牛群の整備を図りつつ、産肉能力の高い子牛を生産し、地域の改良方針に則した子牛育成に努めていかれるそうです。

経営の基本である低コスト生産の取り組みは、地域で低コスト化の指針となっているだけでなく、今後の国内においての舎飼い方式による低コスト生産の道しるべとなる事例として、普及の可能性が極めて高いものになることと期待されています。